

平成 30 年度全国学力・学習状況調査の結果分析（小学国語）

学校名 小坪小学校

調査結果の概要及び教科の課題等（○良かった点や特徴ある点等 ●課題や改善点等）

<p>結果の概要</p>	<p>過去 3 年間は県・全国と比較してほぼ平均的な結果であったが、今年度の平均正答率は、A・B問題ともに、全国・県の平均を 5 ポイント程度上回っていた。全般的によい結果が出ている（学力が定着している）と考えられる。</p>
<p>話すこと 聞くこと</p>	<p>○ A・B問題ともに、全国・県の平均をわずかに上回った。特に、選択式の問題では正答率が高かった。 ● 「話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる。」という記述式の問題では、平均正答率が県・全国を下回った。話すこと・聞くことに関しては平均を超えてはいるものの、記述式の問題に対しての苦手さが表れている。</p>
<p>書くこと</p>	<p>○ B問題では全国・県の平均正答率を少し上回った。 ● A問題では「書くこと」に関しては「自分の想像したことを物語に表現するために、文章全体の構成の効果を考える」という選択式の問題だけであったが、平均正答率が県・全国に比べて低かった。</p>
<p>読むこと</p>	<p>○ A・B問題ともに、全国・県の平均を上回った。特にAの「目的に応じて必要な情報を捉える」という問題では、県・全国の正答率を大きく上回っていた。読むことに関しては得意にしている児童が多いと考える。</p>
<p>伝統的な言語文化と 国語の特質に関する 事項</p>	<p>○ 「文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書く」「日常生活で使われている慣用句の意味を理解し使う」「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」というA問題において、いずれも全国・県の平均正答率を大きく上回っていた。漢字を書くことについては、特に高い正答率であった。 ● Aの「相手や場面に応じて適切に敬語を使う」という問題で平均正答率は県・全国を上回ってはいたものの、他と比べて数値的には低いものであった。敬語については、国語の学習だけでなく、学校内でも使う場面があるので、実際に積極的に使う機会をつくるのが大切である。</p>

平成 30 年度全国学力・学習状況調査の結果分析（小学算数）

学校名 小坪小学校

調査結果の概要及び教科の課題等（○良かった点や特徴ある点等 ●課題や改善点等）

<p>結果の概要</p>	<p>昨年度は、A・B問題ともに平均正答率が県・全国よりも若干低い数値であったが、今年度は、A・B問題ともに県・全国を大きく上回っていた。今まで力を入れてきた算数の少人数授業の成果が表れてきていると考えられる。</p>
<p>数と計算</p>	<p>○ A・B全ての問題で平均を上回っている。 ● Aの「小数の除法の意味について理解している」という問題では、県・全国を上回ってはいたものの、学校の平均正答率が5割を切っているので、「除法」に関するところでは課題があると考えられる。</p>
<p>量と測定</p>	<p>○ 1問を除いて平均正答率が県・全国を上回っており、特にB問題では正答率がより高い結果が出ている。 ● Aの「単位量当たりの大きさを求める除法の式と商の意味を理解している」という問題だけが、唯一、全国・県の平均正答率を下回っていた。正答率は5割を切っている。「数と計算」のところでもそうであったが、やはり「除法」に課題があると考えられる。</p>
<p>図形</p>	<p>○ A・B問題ともに、全国・県の平均を大きく上回っている。特に、Aの「直径の長さと同周の長さの関係について理解しているか」、Bの「合同な正三角形で敷き詰められた模様の中に、条件に合う図形を見出すことができるか」「図形の構成要素や性質を基に、集まった角の大きさの和が360°になっていることを記述できるか」という問題では、県・全国に比べて非常に高い正答率であった。</p>
<p>数量関係</p>	<p>○ A・B問題ともに、全国・県の平均を大きく上回っている。 ● Bの「メモの情報とグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈し、それを記述できるか」という問題では、正答率は県・全国を上回ってはいるものの、約25%という低いものであった。やはり記述式問題に対して課題があると考えられる。</p>
<p>児童質問紙 算数に関する質問 問○～○</p>	<p>「算数の勉強が好きか」「授業の内容はよく分かるか」「問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えるか」という項目で、肯定的な回答の率が高くなっていた。小坪小では、ここ数年、算数の少人数授業に力を入れているが、児童質問紙の回答や、全般的な平均正答率から見ても、低学年からの少人数授業の学校としての成果が出てきていると考えられる。</p>

平成 30 年度全国学力・学習状況調査の結果分析（小学理科）

学校名 小坪小学校

調査結果の概要及び教科の課題等（○良かった点や特徴ある点等 ●課題や改善点等）

<p>結果の概要</p>	<p>平均正答率としては、全国・県の数値をわずかに上回っているが、科学的な思考・表現を問う問題で、弱い部分が見られた。</p>
<p>物質</p>	<p>○ 「ろ過の適切な操作方法を身に付けているか」「より妥当な考えをつくり出すために、2つの異なる方法の実験結果を分析して考察できるか」という問題において、県・全国を少し上回っていた。 ● 「実験結果から言えることだけに言及した内容に改善し、その内容を記述する」という記述問題の正答率がかなり低かった。科学的な思考をした上で表現（記述）するという能力に課題が見られた。</p>
<p>エネルギー</p>	<p>全体としては、平均的な結果であった。 ○ 「実験結果から電流の流れ方について、より妥当な考えに改善できるか」「太陽の1日の位置の変化と光電池に生じる電流の変化の関係を目的に合ったものづくりに適用できるか」という問題の正答率が県・全国と比べて高めであった。</p>
<p>生命</p>	<p>○ 「安全に留意し、生物を愛護する態度をもって、野鳥のひなを観察できる方法を構想する」という問題の正答率が非常に高かった。周りにまだ自然が多く残っている小坪小の環境が生き物に対する気持ちを育てているのかと思われる。</p>
<p>地球</p>	<p>全体としては、平均的な結果であった。 ○ 「より妥当な考えをつくり出すために、複数の情報を関係付けながら、分析して考察できるか」という問題では、県・全国に比べて正答率が大きく上回っていた。 ● 「実験結果から言えることだけに言及した内容に改善し、その内容を記述できるか」という問題で、正答率が3割を切っており、さらに「より妥当な考えをつくり出すために、実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述できるか」という問題では2割を切っている。国語でもそうであったが、記述式の問題に大きな課題がある。</p>
<p>児童質問紙 理科に関する質問 問○～○</p>	<p>● 「理科の授業が好きか」「理科の勉強は大切だと思うか」「授業の内容がよく分かるか」「理科の授業は将来役に立つと思うか」「将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思うか」「観察や実験を行うことが好きか」などの質問項目に対して肯定的な回答をした割合が、全国・県に比べて非常に低くなっている。まずは自然事象に対する興味・関心を持たせるような授業づくりをしていかなければならない。</p>

平成 30 年度全国学力・学習状況調査の結果分析（児童質問紙）

学校名 小坪小学校

特徴的なことや課題と考えられること等

- 「将来の夢や目標を持っているか」という質問に対して肯定的な回答をした児童が 94.4% と、県・全国の平均を 10 ポイント近く上回った。これはとてもよい結果であると考ええる。
- 「毎日、同じくらいの時刻に寝ているか」「毎日、同じくらいの時刻に起きているか」という質問に対し、肯定的な回答が県・全国平均を 5 ポイント程度上回っていた。基本的な生活習慣が整っているということはよい結果である。
- 「地域の大人（学校や塾・習い事の先生を除く）に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりすることがありますか」という質問に対しての肯定的な回答が、県・全国の平均よりも 10 ポイント以上高かった。
- 「自分にはよいところがあると思うか」「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思うか」の質問では、県・全国の平均よりも低い値であった。自己肯定感が若干低いところが気になるところである。
- 「学校のきまりを守っているか」という質問に、肯定的な回答をした割合は、県・全国の平均よりも 10 ポイント程度低かった。このことは学校評価アンケートの中でも同様の結果であり、学校としての大きな課題となっている。

平成 30 年度全国学力・学習状況調査の結果を受けての学校としての取組

学校名 小坪小学校

調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて学校として取り組むこと

国語科・算数科ともに、今年度の児童は平均よりも高めの学力であることを示した。しかし、下級生（来年度以降の 6 年生）でも同様の結果が出るのかは不明である。学校として、どの学年でも子どもたちの学力向上を目指して、毎時間の授業の質の向上を目指さなければならない。今年度より移行期間に入った新学習指導要領で掲げている「主体的・対話的で深い学び」を十分に意識し、教師一人ひとりが日々よりよい授業づくりに取り組んでいきたい。

校内研究会では、一昨年度まで 3 年間は算数科、昨年度は国語科、そして今年度は「特別の教科 道徳」の授業づくりに取り組んできた。この研究等を通して、対象とした教科に限らず、教職員が一丸となって授業力向上に取り組んでいる。今後も校内研究や校外での研究会・研修会等にも積極的に参加するなど、さらなる授業力向上・教師力向上に努めていきたい。

また、算数科の少人数授業は、今年度は 3～6 年生で実施している。学校として算数の少人数授業はすっかり定着しており、その効果もだいぶ高まっていると考えている。今後とも、よりよい少人数授業のための工夫・改善をさらに進めていきたい。

問題形式別に見ると、3 教科とも記述式問題の正答率が低かった。普段の授業の中で、深く考えた上で相手に正しく伝わるように記述するという習慣を付けさせていきたいと考える。